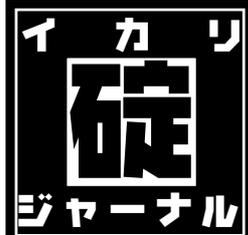


# 講演会場はライブハウスだ

## 市民ジャーナリスト講座3



講義資料  
2004年5月12日  
提供 山恵子 研究室  
道工大 礎山 執筆/編集 剛士  
平 田 剛



平田剛士・著 地人書館・発行  
著者割引価格で  
絶賛発売中

### 一期一会を楽しむのだ

きょう、坂本純科さん（NPO法人コンカリーニョ理事）の帰国報告会を聴講できるあなたはラッキーだ。こうした講演会は、ミュージシャンがライブ演奏するのとよく似ている。たとえ同じ講師が後に別の場所でも同じテーマで話すとしても、きょうのパフォーマンスをナマで観ることができるとは、きょう一回限り。そしてこれがライブであるからには、「観客」の態度もまた、講演会の出来・不出来に大きくかわってくる。おつけえびばで！一緒にきょうのライブを盛り上げようぜい！  
（平田剛士）

### 講師が主役

きょうの坂本さんの帰国報告会もそうだが、講演会の主役は、何といても講師である。その講師に最高のパフォーマンスを演じてもらうには、聴衆は第一に、彼女（彼）に気分よく話させるよう、心を砕く必要がある。

じゃあ、講師の気分はどんな時にノッてくるのか？

だれでも経験あるだろう。だれか相手を喜ばせたいと思って、長所をほめたり、ギャグを飛ばしたりしたとき、相手が期待通りにうれしがったり、ウケてくれたりし

たら、自分もきつと「よっしゃー！」と思うはずだ。そして、もつと喜ばせてあげよう、と相手にいつそうさびスする気になるだろう。

講演会では、主役である講師にその気分を味わってもらえばいい。つまり聴衆の側は、意識して講師（の話しぶり）に好意的な視線を送り、ギャグが出たら（無理にでも）ウケてあげるのだ。

……と書くところ、ちよつとギマン的に聞こえるかも知れないが、プロのエースピッチャーだって立ち上がりは不安定なもの。そこで冷たい視線を送って講師をツブしてし

まっつては、けつきよく聴衆側もモトをとれないことになる。ミュージシャンからの「Are you ready?」の問いかけに「Yeah」と叫んでライブを盛り上げるがごとく、序盤で講師をじょうずにノッてあげることが、まずは講演会成功に向けての第一歩だ。そしてこれ、じつは二対一のインタビュー取材にも大いに共通しているのだが、それはまた稿を改めることにしよう。

### バストショットがベストショット

……つまらんだジャレを書いてしまつてスマン。

こんどは講演会場での写真撮影についてアドバイスしたい。

講演会のリポートをまとめるとき、会場風景や講師の顔写真を添付すると臨場感が増すから、ぜひ何枚かは押さえておきたい。ただし、主催者側が写真撮影や録音を禁じているケースもあるの、開演前に主催者側に確認し、必要な撮影・録音の許可を取りつけておこう。ストロボ使用の可否も確認しておく。

押さえておくべきカットは、主役である講師の表情写真と、講演会の雰囲気伝える全体写真だ。講師の表情写真は、上半身を写し

### 気づばり質疑で立て役者に

「静聴ありがとうございました」講師が結びと、拍手の後、たいていは質疑応答タイムとなる。メモを読み返して、疑問に感じた点、もつと突っ込んで聞きたい点を質すわけだが、ここにも「お作法」がある。

すでに第一節を読んだあなたならば、もうお分かりだろう。せつかく盛り

たバストショットが基本。邪魔にならないよう演台の前まで進み出て、できれば望遠系のレンズを使って、被写体が顔を上げてこちらを向いた瞬間を狙ってシャッターを切る。身振り手振りを使う講師なら、手をかざすタイミングに合わせて撮影すれば、動きのあるカットになる。

講師の表情写真は、開演後の撮影となるが、講師本人やほかの聴衆の集中力を削がないよう、できるだけ素早くおこなう。そのためには、あらかじめ自分の座る席を決めるさい、演台の前まで素早く近寄り、素早く戻れる位置を探すとよい。間違つても長椅子の中央に座つたりして、ほかの聴衆をかき分けて撮影に出るような真似はしないように。

いっぽう全体写真は、広角系のレンズで撮影する。高みから見下ろすように写せる位置を探そう。向き合う講師と聴衆を斜め横のアングルでとらえるのが基本だ。暗くて広い会場全体を弱いストロボで写そうとしても失敗するので、そんなときはいつそノーストロボ撮影を試みる。



レポートに載せる写真は講師の瞬間の表情を狙う

り上げてきたライブを最後にブチ壊しにするような質問はしてはいけない、ということだ。

それはたとえ、講演内容とほとんど無関係な自説をどうとうとしゃべること。またたとえ、講師の言葉尻をとらえて批判を展開すること。細かな数字の確認に固執すること。遅刻して聞けなかつたくせに講師に再説明を求めること――

いやあ、でもそういう質問者って多いんです、実際。そんな人物は講師からも聴衆からも総スカンを食う羽目になる。

質問に立つとき「聴衆を代表して質問しているんだ」という自覚を持てたらベスト。また、質疑応答でだれも手を挙げないようなとき、最初に口火を切つて第2第3のやりとりにつなげられたら、あなたはライブ成功の立て役者だ。

きたきりすずめ



五月病のためお休みします。筆者